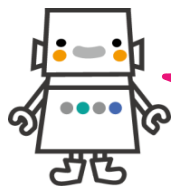


Vol. 50 予防しよう！帯状疱疹

～50歳過ぎたらワクチンを～



帯状疱疹について教えてください。

文責：医師 井上果菜子

日本の成人のおよそ9割は体内に水痘・帯状疱疹ウイルスを持っていると考えられており*、帯状疱疹は体内の水痘・帯状疱疹ウイルスが活動を再開することで発症します。
帯状疱疹の発症率は年々増加傾向にあり、高齢化に伴い、今後も患者数の増加が予想されます。

* (国立感染症研究所感染症疫学センターIASR. 2018 ; 39 (8) : 129-130)

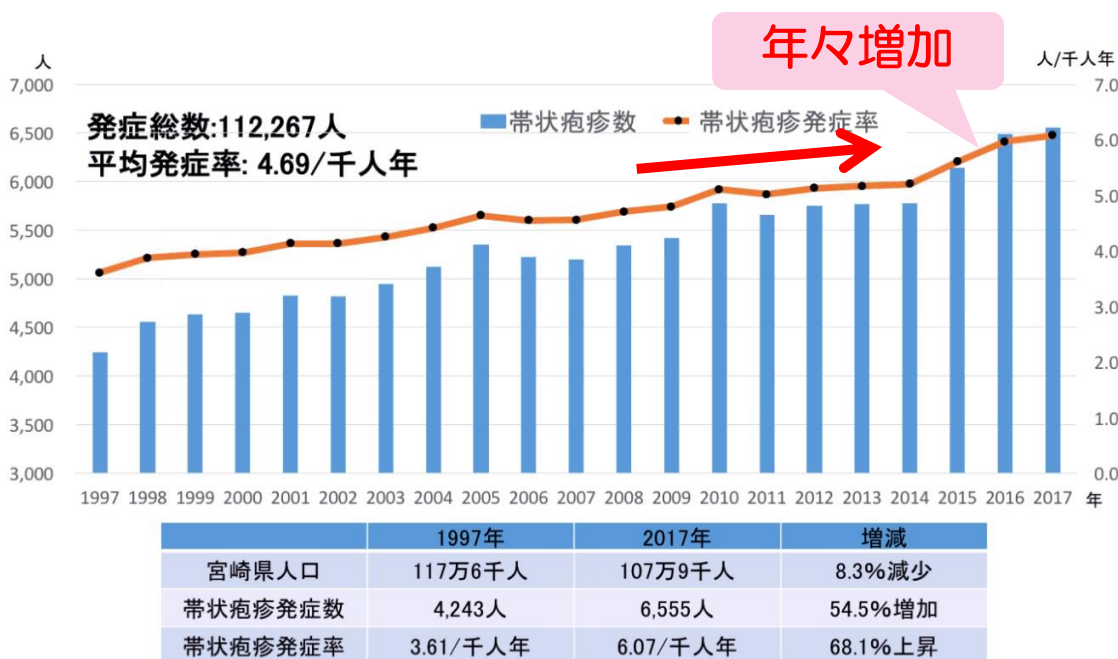


図1. 宮崎スタディ: 帯状疱疹発症数と発症率の年次推移、1997～2017年



【国立感染症研究所 (2018年8月17日掲載) 帯状疱疹大規模疫学調査「宮崎スタディ (1997-2017)」アップデートより引用】

【帯状疱疹の主な症状】

体の左右どちらかに生じる痛みやかゆみを伴う発疹が特徴です。皮膚症状が治癒した後も痛みが残る「**帯状疱疹後神経痛**」が一定の頻度で起こります。

帯状疱疹は加齢等にもなう免疫力の低下で誰にでも起こりうる病気です。発症させないためにしっかり予防することが大切です。



グラフからもわかるように、50代を境に急激に発症率が上昇しています。予防にはワクチン接種が有効です。



【年齢別の带状疱疹発症数及び発症率：リハ医療関係者向けサイト 带状疱疹の疫学より引用】

带状疱疹のワクチンにはどのようなものがありますか？

現在、带状疱疹ワクチンは2種類あります。自治体によっては、予防接種費用の一部を助成する制度もあります。それぞれの特徴をおさえて接種するワクチンを選びましょう。



↓当センターはこちら 事前予約で摂取可能です。

	乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」	シングリックス
種類	生ワクチン	不活化ワクチン
効果	発症予防：50% 带状疱疹後神経痛：66.5%軽減	発症予防：97% 带状疱疹後神経痛：88%軽減
接種回数	1回	2回（2か月以上あけて6か月以内に）
接種部位	皮下注射	筋肉注射
持続期間	5年程度	9年以上
接種対象年齢	50歳以上	

50歳以上で带状疱疹を発症した人のうち、約2割が带状疱疹後神経痛に移行するといわれています。まずは带状疱疹の発症を防ぐために、ワクチン接種でしっかり予防しましょう。

当センターには、保健指導担当の保健師、管理栄養士、健康運動指導士がいます。健診の際は、お気軽にご相談ください。